

本会議における検討事項と 今後の進め方について

教育データの利活用に関する有識者会議について

有識者会議の概要

- ▶ 児童生徒 1 人 1 台端末環境において、誰一人取り残すことなく、全ての子供たちの力を最大限に引き出すことに資するよう、教育データの効果的な利活用を促進するために必要な方策について具体的な検討を行う場として、令和 2 年 6 月に設置。
 - 第 1 期：令和 2 年 6 月～令和 4 年 3 月
 - 第 2 期：令和 4 年 4 月～令和 6 年 3 月
 - 第 3 期：令和 6 年 4 月～令和 7 年 3 月

これまでの有識者会議における検討状況

- ▶ 第 1 期、第 2 期においては、先進的な取組を行っている教育委員会や学校に発表いただきながら、①教育データの標準化などの共通的なルールの整備、②基盤的ツールの開発・活用、③教育データの分析・利活用の 3 つの柱に沿って、検討を進めた。
- ▶ 令和 3 年 3 月 「教育データ利活用に係る論点整理（中間まとめ）」とりまとめ、公表。
（令和 3 年度、4 年度 教育データ標準、教育データの利活用に関する留意事項等を審議、とりまとめ）
- ▶ 令和 6 年 3 月 「教育データ利活用に向けた実効的な方策について（議論のまとめ）」とりまとめ、公表。
 - ⇒ 今後教育データの利活用を全国の教育委員会・学校で実現するために必要な方策、令和 6 年 4 月以降の第 3 期有識者会議においてさらに検討が必要な事項をとりまとめ。

教育データ利活用の実現に向けた実効的な方策について（議論のまとめ）【概要】

（令和6年3月 教育データの利活用に関する有識者会議）

はじめに

- ▶ GIGAスクール構想が開始し、一人一台端末の整備から約3年を経て学校における端末の利活用が定着
- ▶ GIGAスクール構想第2期に向け端末の更新やネットワーク強化など、教育委員会や学校等の関心の高まり
⇒全ての教育委員会や学校における教育データの利活用を実現するために今後1～2年で必要な取組やさらに検討が必要な事項について取りまとめ。

1. 教育データ利活用によって目指す姿

- ▶ 児童生徒1人1台端末環境の実現が進む中、全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実が重要。

教育データ利活用の目的（例）

児童生徒 : 学びの振り返り、自分の強みや弱みを踏まえて次の学びにつなげられる
教師 : よりきめ細かく効果的な指導・支援、より効果的な学級運営ができる

保護者 : 子どもに対してより適切な家庭学習などの支援ができる
教育委員会 : 効率的な域内の実態把握、施策改善、学校への必要な支援等ができる

2. これまでの成果

教育データの標準化などの共通的なルールの整備

- ◆ **教育データ標準** : 様々な教育データの相互運用性を確保に向け、データ内容の標準を順次公表。
- ◆ **学習eポータル標準モデル** : ツール間の相互運用性確保のため、技術規格等を順次公表

基盤的ツール（※）の開発・活用

- ◆ **MEXCBT** : 令和3年度より本格運用。ほぼ全自治体、約2.7万校、約850万人の児童生徒が登録（令和6年3月時点）。令和5年度全国学力・学習状況調査の中学校英語「話すこと」調査にて活用。
- ◆ **EduSurvey** : 令和4年度から導入。令和5年度は100以上の調査を実施。

教育データの分析・利活用

- ◆ **データ分析** : 令和3年度より教育データ分析活用手法等の実証研究を実施。令和5年度は特定の自治体で実施したデータ分析手法を横展開する取組を実施。
- ◆ **留意事項** : 個人情報やプライバシーの保護の観点から留意すべき点について、「教育データの利活用に係る留意事項（第2版）」を公表（令和6年3月）。

データ利活用も見据えた次世代の校務DXの推進

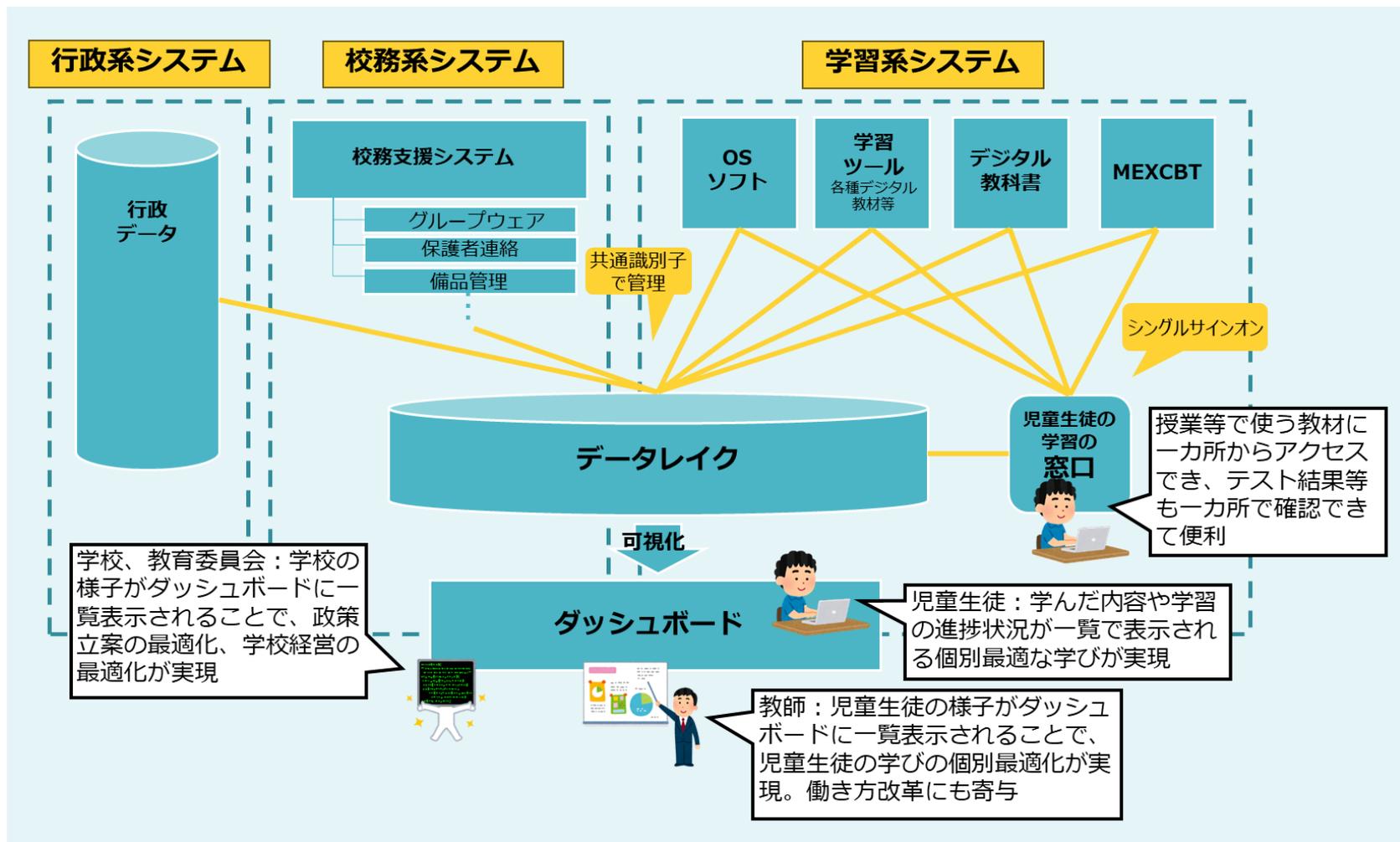
- ◆ 令和5年3月に専門家会議の提言を取りまとめ、**教職員の働きやすさと教育活動の一層の高度化に向けた次世代の校務DXの方向性**を提示。データ利活用も見据え、提言で示された、校務系・学習系ネットワークの統合、クラウド活用を前提とした次世代の校務支援システムの整備に向け、令和5年度から実証事業を実施し、モデルケースを創出。

自治体におけるシステム構成の検討

- ◆ データ利活用の実現に向け、自治体がシステムを導入するに当たり、必要であると考えられる機能とシステム構成のイメージを以下の観点も踏まえつつ整理。（次頁）
 - ✓ 必要な者が必要な時にアクセスできる形でのデータ作成、保有、活用しやすい可視化
 - ✓ 簡便に教育データ利活用の効果が実感できる仕組み
 - ✓ 児童生徒が様々な学習ツール等を簡単・便利に使える仕組み
 - ✓ セキュリティ面も含めた安全・安心の確保

※ MEXCBT:文部科学省が開発した、児童生徒が学校や家庭において学習やアセスメントができるCBTシステム
EduSurvey:文部科学省が開発した、国から教育委員会や学校への調査をクラウドで回答でき、自動で集計されるシステム

自治体におけるシステム構成・必要な機能イメージ



(必要な機能イメージ)

- 様々な学習ツール等に一カ所からのログインが可能になる仕組み
- 児童生徒等の様々なデータを共通の識別子で管理・連携する仕組み
- 学習ツールで学んだ内容を集約・蓄積できる仕組み
- 校務系データや学習系データ、行政系データなど、データ利活用に必要な様々なデータを連携し、包括的に保管・管理する仕組み
- データへのアクセス権限の付与・制限を管理する仕組み
- 教育委員会や学校、教師、児童生徒、保護者がそれぞれ必要なデータをわかりやすく簡便に把握できるよう、データを分析・可視化できる仕組み (例：ダッシュボード)

3. 今後に向けた課題

①教育データ利活用の意義の周知・必要性や有用性の認識共有

教育データ利活用の具体的なメリットや実現するビジョンへの、教育委員会や学校、保護者による十分な理解、納得が重要。

必要な取組

- 具体的な教育データ利活用の意義や目的についての教育関係者への広い発信
- データの価値や分析の意味に関する教育学的な観点からの解釈の提供
- 先進事例、今後の新たな事例、研究成果、国事業の成果など横展開
- 様々な媒体を用いた戦略的広報

③データリテラシーの向上とデータの適切な取扱いの徹底

教育委員会職員や教職員等のデータを活用する資質・能力の育成が重要。個人情報への適切な取扱いの確保やプライバシーの保護の観点も踏まえた安全・安心な教育データ利活用が重要。

必要な取組

- 養成と研修全体を通じたデータ活用能力の一層の向上（教員養成段階におけるデータリテラシーの向上に向けた教育の充実、現職の教師に対する国によるコンテンツ提供、都道府県等における研修の更なる充実）
- 国による教育データの読み取りや解釈、活用方法に係る伴走支援
- 教育委員会等における適切なデータの取扱いの徹底
- 国による留意事項の周知徹底

②教育データ利活用のための標準的なシステム構成の提示、各自治体における実装支援

各自治体のニーズに応じたツール等の選択（学習ツール、OS、学習eポータル、校務支援システム等）、データ相互運用性を確保したシステム導入・維持が重要。

必要な取組

- 標準的なシステム構成の提示（全国的に取り組まれることが望ましい部分、教育委員会や学校の判断で選択する部分の区別）
- 自治体への実装支援（調達時の参考資料提示、導入実証、製品やサービスが望ましい技術要件に適合しているかの見える化、データ可視化フォーマットの横展開、データ標準化、財政的支援、各自治体での予算化に必要な情報や資料の提供、好事例の普及）

④国、地方自治体、民間等の役割分担を踏まえた教育データ利活用の推進

コスト面を含め持続可能な取組とする観点から、必要があれば都度改善しながら、国、教育委員会、学校、民間企業等各ステークホルダーが役割を果たすことが重要。

必要な取組

- **国**：意義周知、共通ルール・標準的なモデル策定、公平公正な競争のもと多くの事業者が参加できる枠組みづくり、教育委員会や学校への財政面も含めた支援
- **自治体**：教育データ利活用の要としての役割、学校の実態やニーズを踏まえた環境整備、保護者への理解醸成
※ 都道府県のリーダーシップ（環境整備、自治体間データ共有、情報交換、事例蓄積など広域的な取組）も期待
- **民間企業**：協調領域を守りつつ、創意工夫を行いより良いサービスを提供
- **研究機関**：教育データの意味等に関する教育学的な意味の発信、学校現場との協働研究、民間企業のサービスの効果検証や分析への協力

4. まとめ

- ▶ これまで進めてきた取組も引き続き進めるとともに、「3. 今後に向けた課題」について、可能な部分からの実施を期待。
- ▶ 教育データ利活用のための標準的なシステム構成や、コスト面を含めた国、地方自治体、民間等の役割分担は、次期有識者会議における早急な議論を期待。
- ▶ その際、①教育現場の様々な現状とニーズを詳細把握すること、②理想と現実とのギャップを認識し、実現可能なところから着実に取組を広げる考えに立つこと、③持続可能な環境の実現に留意することが重要。
- ▶ デジタル技術、教育現場の現状やニーズ等、教育データの利活用を取り巻く環境は常に変化中、検討に当たっては不断の見直しを続け、柔軟性を持つことが重要。

第3期有識者会議に検討をお願いしたいこと

教育データ利活用を全国の教育委員会・学校に広めるために、教育データ利活用のための標準的なシステム構成や、コスト面を含めた教育データ利活用を持続可能な取組とする観点からの国、地方自治体、民間等の役割分担について検討を行う。

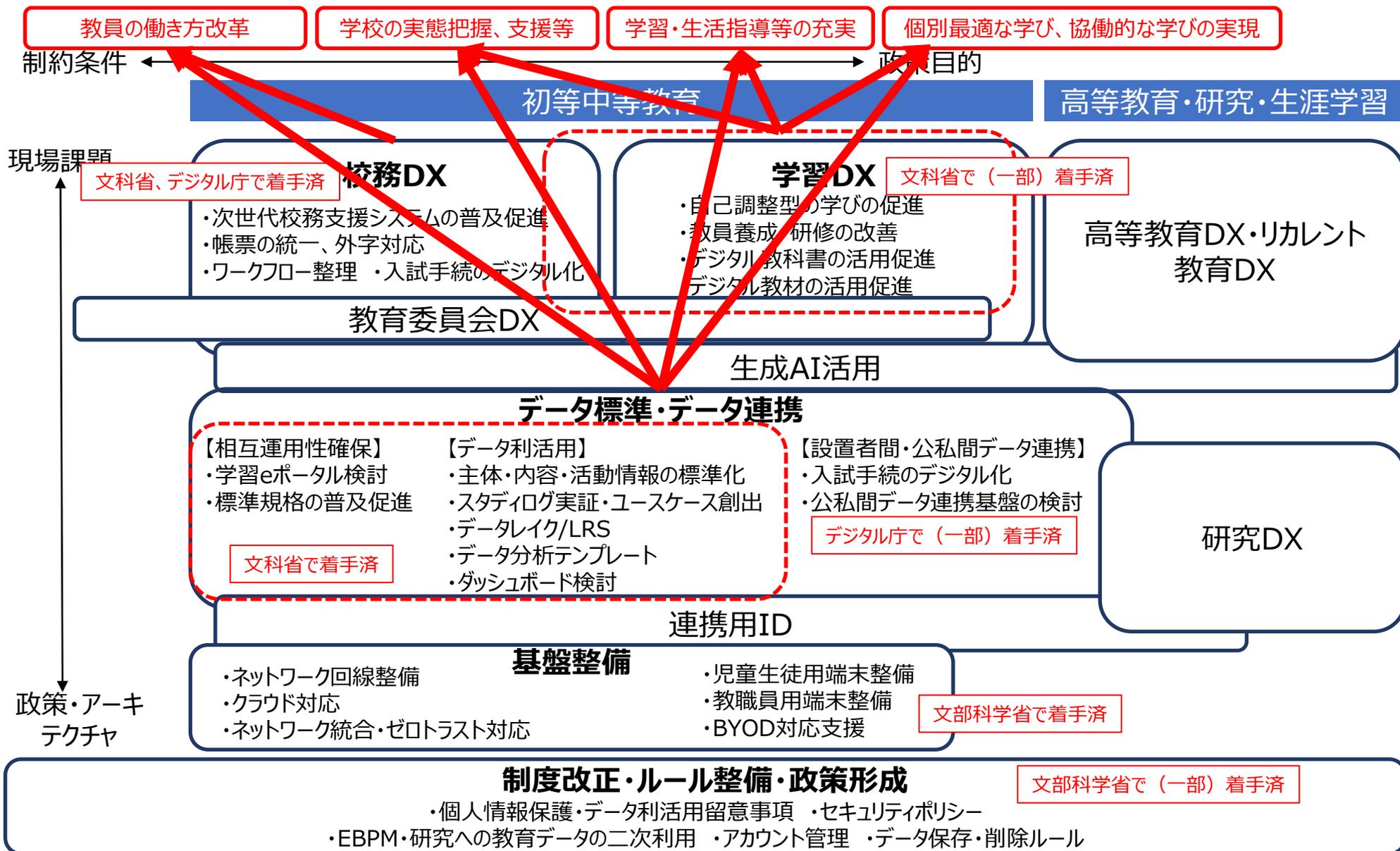
【検討をお願いしたいこと】

先進的に取組を進めてきた地域のみならず、全国の教育委員会、学校に取組を広げる観点から

- ① 教育委員会や学校現場における、教育データ利活用に関する実態、ニーズや取組上の課題を改めて整理
- ② 教育データ利活用が効果的な具体的なケース例を設定し、その意義や効果を、教育委員会や学校の教職員等が分かりやすいように整理し、提示（①と一体的に議論・抽出）
- ③ ③－1（①の期待に応えるために、また②において整理されるケース例を実現するために）必要となる機能やサービスの現状・課題を確認しつつ、自治体等が整備することが望ましいシステム構成や必要な機能等を整理。
③－2 その際、「将来像を見据えつつ、実現可能なところから着実に実施する」観点から、すべての自治体で最低限整備が必要なことと、各自治体がニーズに合わせて選択することができることを区別して提示する等、初めて取り組む自治体や小さい自治体等にも配慮
- ④（これまで国レベルで整備してきた仕組みや、③で整理するシステム等を含め、）教育データ利活用を持続的に行っていくため、国、地方自治体、民間企業、研究機関等は、コスト面も含め、それぞれがどのような役割を果たしていくことが望ましいかを整理、提案
- ⑤ 教育データ利活用に向け、その他、短期的、中期的に必要な論点があれば提案

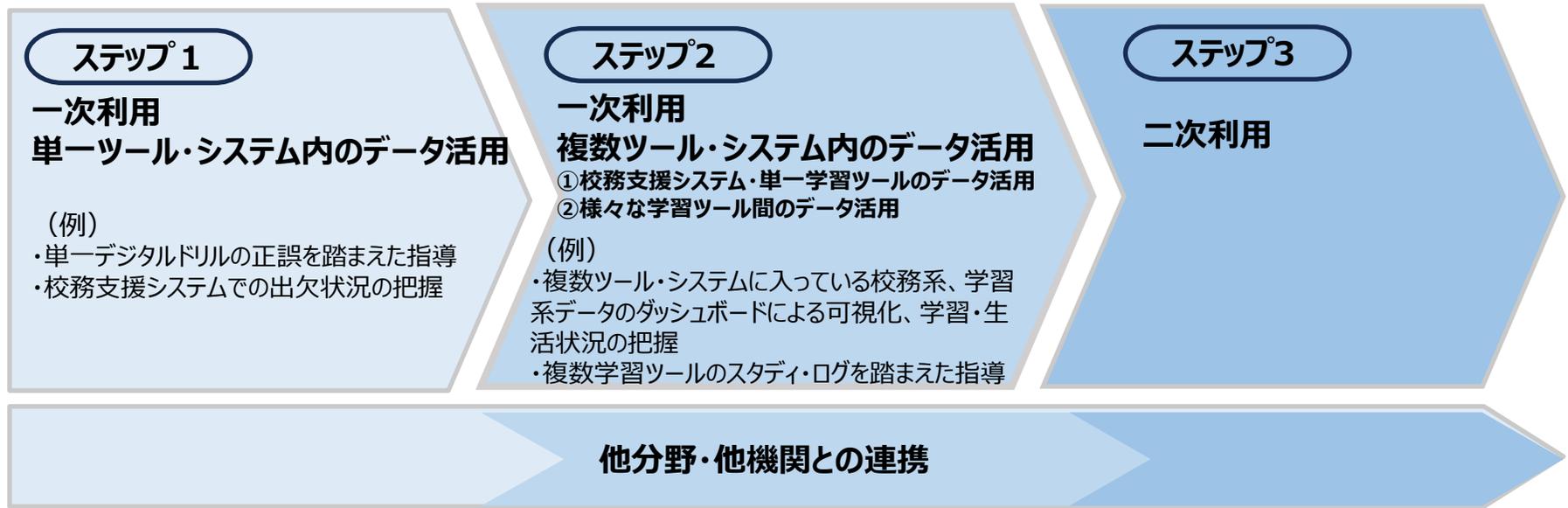
教育データの利活用の全体像（赤枠は今期会議の Scope）

教育DXにおける政策課題マップ（学校教育関係）【主に文科省関連部分を抜粋】



教育データ利活用のステップ・具体的な目的やイメージ

教育データ利活用の3つのステップ（案）



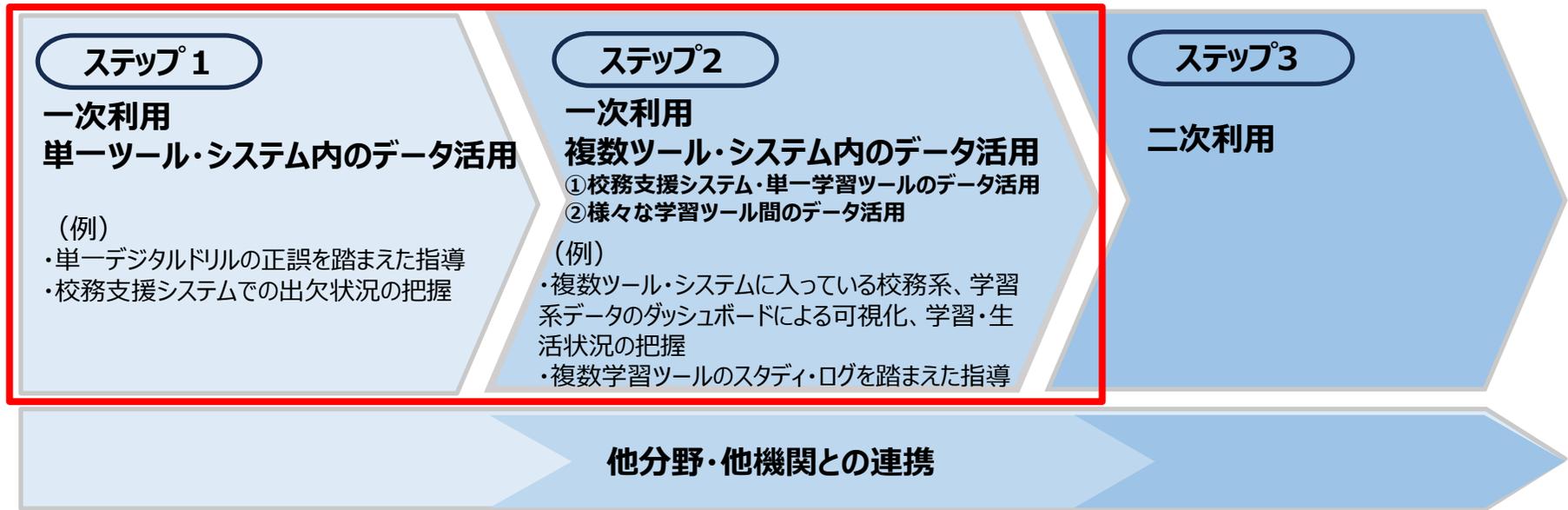
主体別の活用イメージ（ステップ1・2）

	主体	目的・活用イメージ
1	児童生徒（保護者）	・自身の学びの振り返り、次の学びへつなげること
2	学校・教職員	・きめ細かい個別指導・支援（学習指導面）
3		・きめ細かい個別指導・支援（生徒指導面）
4		・効果的な学級経営
5	教育委員会	・学校への指導・助言・支援、施策改善
6		・他機関と連携した必要な児童生徒への個別支援

教育データ利活用のステップ・具体的な目的やイメージ

今期は赤枠部分について検討

教育データ利活用の3つのステップ（案）



主体別の活用イメージ（ステップ1・2）

	主体	目的・活用イメージ
1	児童生徒（保護者）	・自身の学びの振り返り、次の学びへつなげること
2	学校・教職員	・きめ細かい個別指導・支援（学習指導面）
3		・きめ細かい個別指導・支援（生徒指導面）
4		・効果的な学級経営
5	教育委員会	・学校への指導・助言・支援、施策改善
6		・他機関と連携した必要な児童生徒への個別支援

今後の検討スケジュール（予定）

4月	本有識者会議における検討事項、今後の進め方について
5月～11月 5回程度	今後検討が必要なポイントについてヒアリング・意見交換
12月	議論のとりまとめ
ヒアリング先候補	教育学有識者、教育現場、ツール事業者、他分野有識者、保護者